

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成30年(2018年)

6-7月号

(通巻 176号)

2018年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ハマヒルガオ
砂浜に生えるありふれた野草も、埋め立てが進んだ東京湾岸では貴重品です。堤防の隙間に群生していました。

P1 ☀️ いきもの写真館
ハマヒルガオ

P2 ☀️ 気にしておきたい市川の自然
ゼフィルス
/ 3

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
ユウゲシヨウ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
堀之内・道路工事が始まる前の風景

☀️ くすのきのあるバス通りから
4・5月の草木

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
イソギンチャク

P7 ☀️ わたしの観察ノート
3月～4月の記録

P8 ☀️ 行事案内

気にしておきたい市川の自然

ゼフィルス

ゼフィルスというのは、蝶のシジミチョウ類の一部を指す言葉です。わたしたちが日常生活の中で目にする機会はありませんが、とても美しい蝶です。市川市域では、存在が広く知られないままに生息場所が減少しています。

ゼフィルスの代表ミドリシジミ

ゼフィルスと呼ばれる蝶の代表が、ミドリシジミです。市川市域では、現在は大町公園の自然観察園（長田谷津）に生息しています。

ミドリシジミは、湿地に生育するハンノキという樹木で暮らす蝶です。卵はハンノキの幹や枝に産み、幼虫は葉を食べます。蛹になるときは根元に降り、羽化した成虫はハンノキの林で暮らします。ハンノキが無ければ生きていけない蝶というわけです（蜜はほかの植物の花で吸います）。

市域の低地に水田が広がっていた時代、一部にはハンノキ林があり、そこにミドリシジミが生息したと思われれます。やがて宅地開発などで湿地とともにハンノキ林も無くなり、ミドリシジミも姿を消しました。かろうじて残ったのが、自然公園となった長田谷津です。ここではミドリシジミの存在が認知されているので、公園管理のなかで生息環境は適切に保全されています。ハンノキの大半は公園開設後に植えられ増えたものです。ミドリシジミもいつからか定着し増えました。もともとの由来ははっきりしませんが、市川市域唯一の生息地として保全されたことは幸いでした。

ゼフィルス以外にも

ミドリシジミは湿地のハンノキ林で暮らしますが、コナラやクヌギが生える雑木林に生息するゼフィルスもいます。アカシ

ジミ、オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミといった種類です。これらの種類では、ミドリシジミにとってのハンノキがコナラやクヌギにあたります。

樹木に頼って生きる蝶は、ゼフィルス以外にもいます。たとえば、有名なオオムラサキがそうです。対象の樹木はエノキです。市川市域ではオオムラサキが姿を消して久しいですが、ゴマダラチョウ（最近では外来種のアカボシゴマダラ）が、いまでもエノキに頼って暮らしています。

林で暮らす蝶や蛾には配慮が必要

わたしたちの日々の暮らしでは、蝶と言うと「キャベツ畑のモンシロチョウ」や「ミカンの木に来るアゲハチョウ」の印象が強く、雑木林を蝶や蛾の生活場所として考えることがありません。林の自然というと、どちらかと言うと華やかな野草や野鳥に目が向きがちです。ですが、林を生活場所とする蝶や蛾はいくらでもいます。天蚕で知られるヤママユも雑木林が無ければ生きていくことができない種類です。

以前、沖縄のやんばるの森を歩いた時、遊歩道のいたるところに、いろいろな種類のイモムシや毛虫がいて、数も多く、感心したことがあります。

林を「みどり」と言い換えることで見失うものが多くあります。そこには多くの蝶や蛾が住んでいることを認識し、配慮する必要がありますでしょう。



ミドリシジミ

薄曇りの日、美しい翅をきれいに開いてくれた

2009年06月03日
大町公園（長田谷津）



アカシジミ

雑木林の中にあるクリ畑で蜜を吸っていた

1997年06月10日
柏井町2丁目



ミズイロオナガシジミ

アカシジミを探していたら、偶然、落ち葉に止まっていた

1997年06月07日
柏井町2丁目



ヤママユ

大町では動植物園開園のころはよく見かけた。最近も時々見る。

2017年08月23日
大町公園（長田谷津）



ユウゲシヨウ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を
このコーナーでは紹介しています。

庭の雑草の中には
つい、ひとかたまりくらいならと
残してしまうものがあります。

ユウゲシヨウも

そういう雑草(野草)のひとつです。

もともとが観賞用として世界各地に広まったものなので
きれいと感じて当然です。

特にハルジオンとの群生は美しく、
刈り残した一角を見て、つい満足してしまいます。



街かど自然探訪

おじゃまします!

ほりのうち

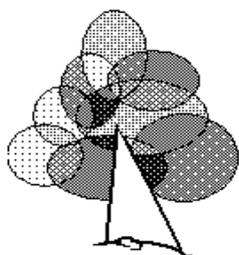
堀之内・昭和の道免き谷津

昭和に撮影された写真です。右端の崖の上の建物は、今の考古博物館です。左側の森は、堀之内貝塚です。台地を削った跡が崖になっていて、土が露出しています。手前の水の張られた田んぼには、森の姿が写りこんでいます。台地の斜面が森で覆われ、谷底に田んぼが広がる風景は、かつて、市内ではどこでも見られました。谷は「道免き谷津」と呼ばれ、湧水が豊富に流れていたそうです。

今月開通する東京外かく環状道路は、この谷津を通り抜けます。



△ 1976(昭和51)年頃撮影 (市川市所蔵)



くすのきのあるバス通りから No.118

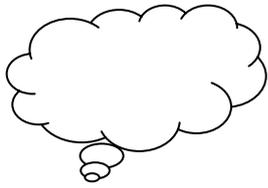
4・5月の草木

花粉症が治まったと思っていたのに再発し、「江戸川の河川敷のネズミホソムギの花粉のせいでは？」と娘が医者から言われたそうです。「そういえば、荒川の河川敷の草に触ったりしてからだ」とのこと。街路樹の根元、家を取り壊され空地になった所にネズミムギの仲間が穂をつけていました。

4月、原木の方から田尻に行こうとして、高谷川の河口近くの残土置き場の様なところを通りかかると、ニセアカシアが咲いていました。湾岸と国道

357号線と高谷川にはさまれた所です。大柏川の左岸(奉免町)に数本ユリノキがありました。「今年は大町ではユリノキの開花が早かった」というので、ここの木はとうに咲き終わっていたのでしょうか。5月、あちこちの小学校で運動会が開催されています。富貴島小の校庭のタイサンボクを思い出します。白く、大きな、厚みのある花びらが落ちているのに、子供たちの競技に夢中でだれも気づかないようでした。

(M. M.)



展示室

No.20

飼育生物の話題



見やすい場所の イソギンチャク

東京湾奥の干潟で捕まえてきたイソギンチャクを飼育展示しています。展示しているのは、砂にもぐるタイプのイソギンチャクです。この種類は、体は砂の中に潜っていて、触手だけを砂の上に広げています。体の底は貝殻の破片などに固着しているので、その貝殻ごと掘り出せば移動可能です。過去にも何回か掘り出して展示しました。

展示水槽に移したイソギンチャクは、よく動きます。一晩ごとに場所が変わっていて、感覚的には「歩いている」感じです。水槽では底面のプラスチックに固着するので、それを無理やりはがして移動することはできません。前面の見やすい場所で落ち着くかどうかは、イソギンチャクしだいです。いま飼育しているものは前面左隅というとても良い位置取りをしてくれました。砂を浅くしているので、触手だけでなく、野外では見られない体全体がよく見えます。毎日、二枚貝の肉片をひとつ与えますが、触手に触れるやサッと飲み込んでしまいます。まるで体全体が胃袋のようです。数センチの至近距離で見るイソギンチャクは、水族館の水槽で見るような優雅なイメージではなく、もっと生々しい生き物に見えます。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ニホンアカガエルの産卵は、今シーズンは大きく2回ありました。最初の回のおたまじゃくしはしっかりした体になって元気に泳ぐようになりました。2回目の方は、卵塊の上で黒くうごめく状態でした(3/18)。
- ・ミズバショウに限らず、暖かい春の影響で、どの花も咲いてから終わるまでがあつという間です。ミズバショウの白い苞が倒れていました(3/25)。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・観察園の枯れ木でコゲラが巣穴を掘っていました(4/7)。かわいい雛が見られるでしょうか。
- ・サナエトンボの一種が、中央水路で羽化していました(4/13)。羽化殻もたくさん見られました。
- ・斜面林の竹林にキンランが咲いていました(4/20)。
- ・梢にイカルが5羽ほど群れていました(4/22)。囀りが谷に響き渡っていました。

◆大町より

- ・動物園の第二駐車場の横でアカネズミが死んでいました(4/22)。

以上 稲村優一(自然博物館)。

◆中山法華経寺より

- ・10時7分にツミの声が聴こえ、姿をさがして境内を歩きまわっていたところ、10時20分に聖教殿の脇でセンダイムシクイのさえずりが聴こえ、ケヤキの枝に止まる姿も見られました(4/22)。

T. T. さん(船橋市在住)

◆真間山南側斜面林より

- ・早い春の訪れにさそわれて、チョウが飛び始めました(3/25)。キチョウ、スジグロシロチョウ、シジミチョウなど賑やかです。
- ・斜面林の下、フキがはえている中にタヌキがいました(3/31)。10年くらい前に見て以来久しぶりです。皮膚が白っぽくて元気がないのが気がかりでした。

以上 M. T. さん(市川在住)

◆大柏川第一調節池緑地より

- ・広々とした空を、一羽でしたがツバメが飛んでいました(3/13)。暖かい日で、春を実感しました。

◆じゅんさい池緑地より

- ・道端にいろいろな雑草が咲いていました(4/21)。キュウリグサが目立ったほか、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、カタバミ、ハコベ、スズメノカタビラ、オニノゲシ、ヘビイチゴ、オニタビラコなど、いろいろ生えていました。

◆江戸川放水路より

- ・妙典樋管の手すりをアオダイショウがはっていました(4/27)。捕まえて、一緒に自然観察していた幼稚園の子どもたちに間近で見せて盛り上がりました。

以上 金子謙一

3月は、月平均気温・日照時間がともに過去最高になり、桜が月末には満開になりました。4月に入っても温かい日が続き、季節の進みが例年より10日ほど早いようでした。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。

おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場所 自然観察園
- ・時間 午前10時～12時
- ・定員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

日にち	受付開始日
-----	-------

7月15日⑩	6月16日より
--------	---------

8月12日⑩	7月21日より
--------	---------

お申し込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「O月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 7月7日⑩、8月4日⑩、9月1日⑩、午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
-----	----	------

初秋の江戸川土手	9月16日⑩午前10時～11時30分	里見公園正門	午前10時
----------	--------------------	--------	-------

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

(雨天中止)

- ・日時 6月24日⑩、9月30日⑩、(7・8月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを
お手伝いしていただきませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 7月8日⑩、8月5日⑩、9月2日⑩、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第30巻 第2号 (通巻第176号)

平成30年6月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shisetsu/haku/>